

こんな経験をしました

# 提案の動機



塾で勉強したいのにお金  
がないから通えない…



私たちは考えました！



自分で塾に行ける機会を  
作れたらいいのになあ…

そこで...

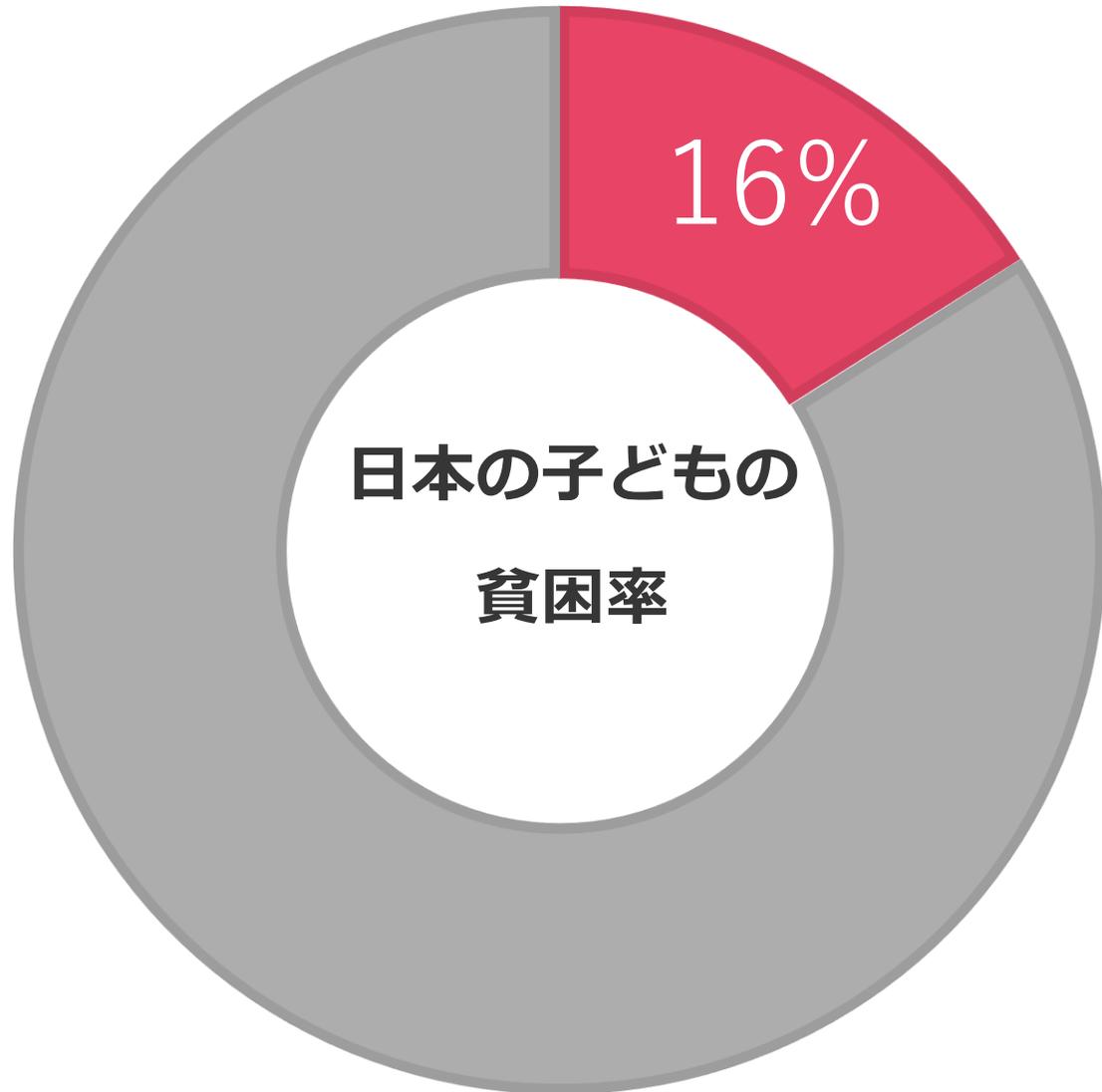


今の子どもたちにも同じような経験があるのではないか  
相対的貧困にある子たちに対して支援できる制度を考えてみよう！

何の割合？

16%

# 日本の貧困率は深刻



日本の子ども（17歳以下）の  
**16%**が**相対的貧困**  
の状態にある。

出典：OECD (2017g), OECD Income Distribution  
(データベース)

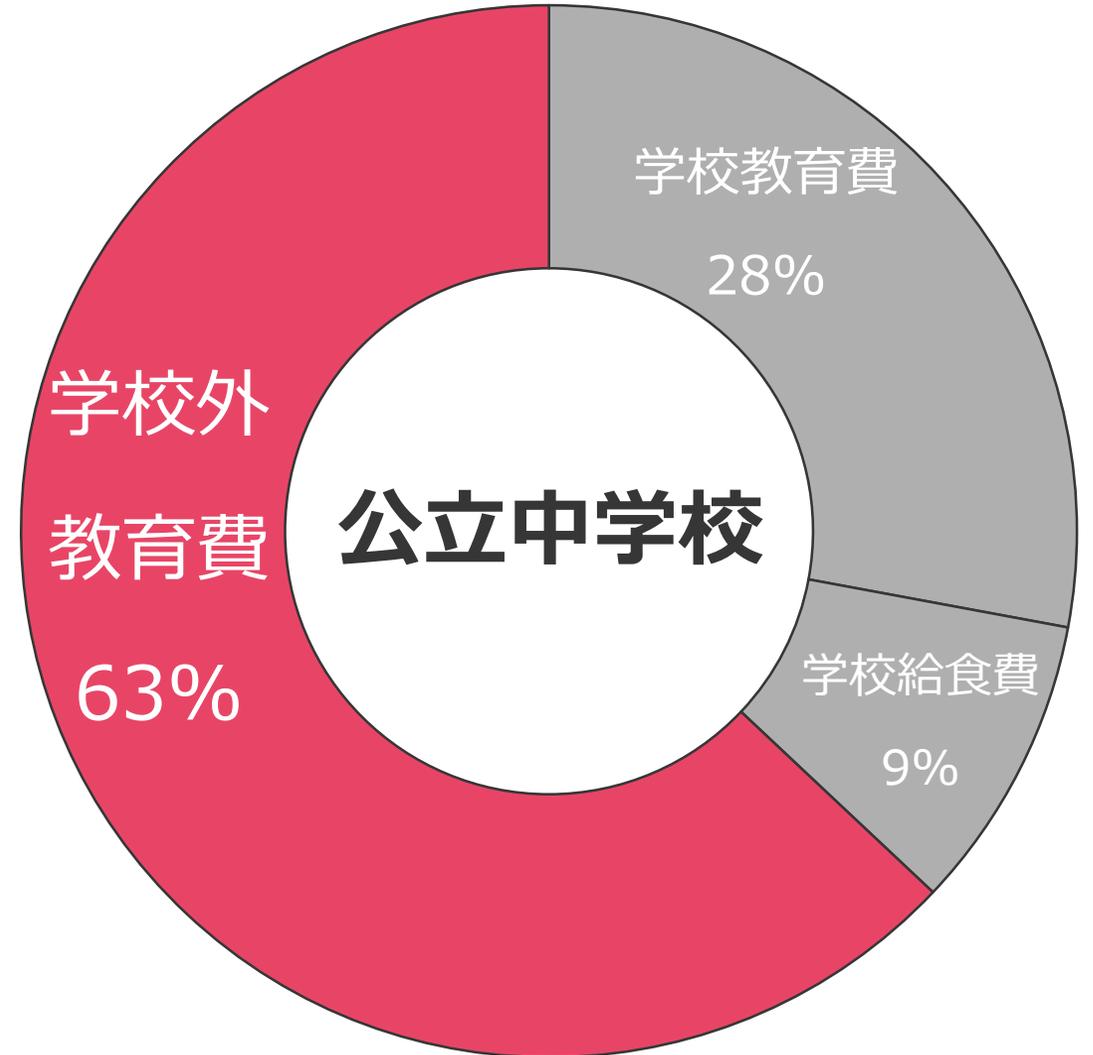
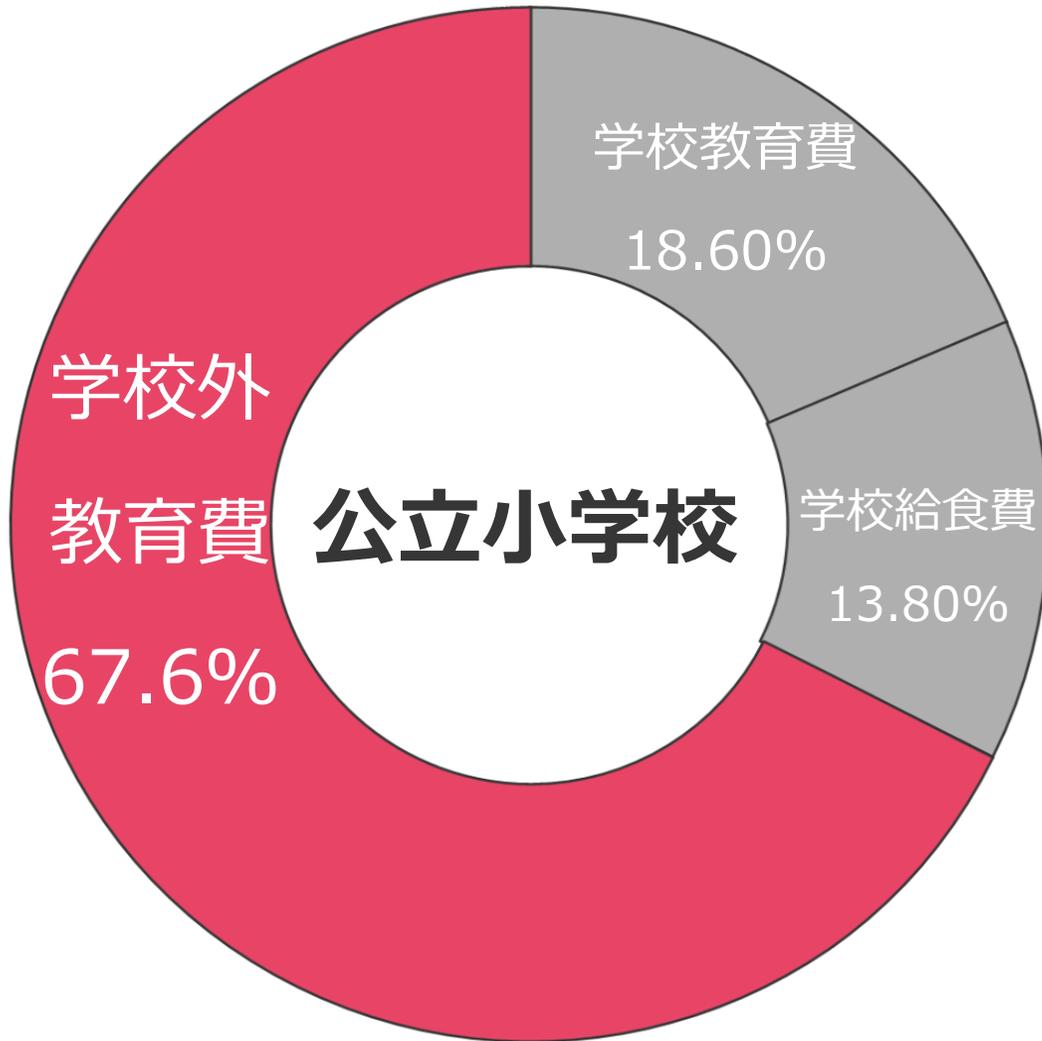
# 支援が必要な理由

相対的貧困により「当たり前」の機会を十分に得られない

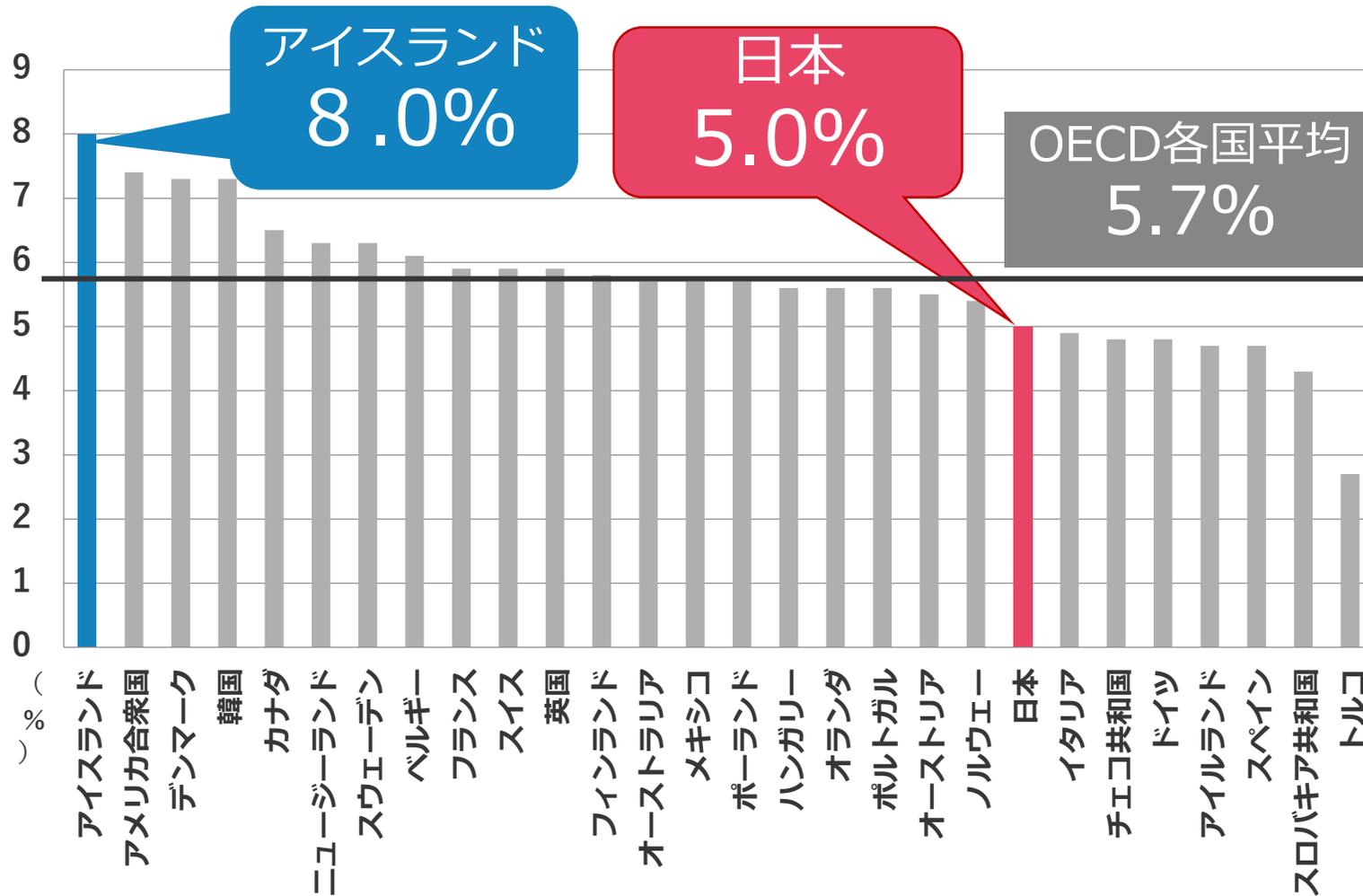
教育機会の喪失

**貧困の連鎖を生み出している**

# 家庭は学校外教育費の負担が大きい



# 日本政府の補助は不十分



GDPに対して  
**政府が教育に支出する**  
金額の割合は  
OECDの**平均以下**

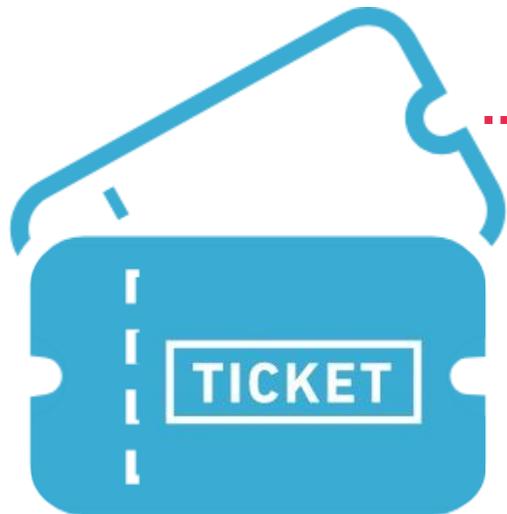
**金銭的理由により、学習機会を  
諦めている子どもたちがいる**

政府の補助は十分とは言えない…



**子どもたちの  
学習機会を創出したい！**

# ポイントカード型 教育バウチャー券の提案



学習院大学経済学部 清水順子ゼミ 3年

古瀧 紗夜

小泉 亜夕

佐藤 七愛

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# 1. 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

こんな経験はありませんか…？

毎朝早起きしてラジオ体操カードに  
スタンプを押してもらおう

自分で頑張って得た景品は、  
うれしい！！



# ポイントカード型教育バウチャー

利用の主体は子ども

ポイント制で現金が動かない

用途が限定されている



# ポイント制で還元をシンプルに

## 「あつまるカード」から学ぶ

北海道厚真町では、子育て支援政策の一環で、**住民が支払った医療費・保育料・高校生通学費の一部を、普段の買い物に利用できるポイントとして還元**する施策が行われている。ポイントを貯めた分だけ、提携した商店などで買い物に利用できる。

# 使途の限定された補助金「バウチャー」

## 定義

「個人を対象とする**使途制限のある補助金**」  
使用目的を**限定**してクーポンを配布することで補助を受ける制度

## 導入事例

**北欧**を中心に未就学児の保育料に対して導入  
日本では**大阪市**が独自で「**塾代助成事業**」を利用

## 利点

利用者が**制限内で自由**な選択が可能  
消費者ニーズに合った機関ほど自治体の支援を受けられる  
ことで、自然淘汰が起きて**効率的**に補助を与えられる。

# ポイントカード型バウチャー券の利用の流れ

学校で  
ポイントカード  
をもらう

地域で  
ボランティア  
などをする

学童保育施設  
でポイント  
支給

提携機関で  
ポイント相応  
の学習体験

# 各機関の役割

## 学童保育施設



- ・学校からカード支給（1ヶ月1枚）
- ・学校に通う全ての子供が対象
- ・子供の自治体活動に対しポイント支給

## 自治体



- ・支援提携機関の募集
- ・地域活動の機会提供

## 提携機関



子供の貯めたポイント  
を利用し、相当の  
学習・体験機会の提供

# 運営主体は学童保育

相対的貧困率を押し上げているのは、**単身世帯  
大人1人と子どもの世帯、2人以上の大人のみ**の世帯

子どもの貧困は**一人親世帯が多い**と想定

**学童保育**に預けられるのは  
**一人親世帯**や共働き世帯の子供

**支援が必要な子どもたちを効率的に施策に取り込める**

# ポイント取得・還元の例



活動内容	活動1回分のポイント
清掃活動	2ポイント
募金活動	2ポイント
高齢世帯への声掛け運動	2ポイント
老人ホーム訪問	3ポイント

提携先(すべて1回分)	必要なポイント
そろばん教室	6ポイント
ピアノレッスン	4ポイント
ダンス教室	3ポイント
水泳教室	3ポイント



# モデルケース①

小学4年生 Aちゃんの場合 (学童生)



新たにピアノ教室に通いたい。



学童主催の清掃活動に参加



2ポイントGET



清掃活動に再度参加



4ポイントGET



レッスン1回分無料

# モデルケース②

小学6年生Bくんの場合 (学童生でない)



そろばん塾に通いたい



学童主体の老人ホーム訪問  
に自ら2度参加



6ポイントGET



そろばん塾1コマ無料



再びボランティアに参加



通塾につながる

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# 2. 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

# 各家庭へのメリット

①子どもの学校外教育費負担の軽減

②子どもへ様々な教育機会を提供出来る

③子どもの地域における孤立防止



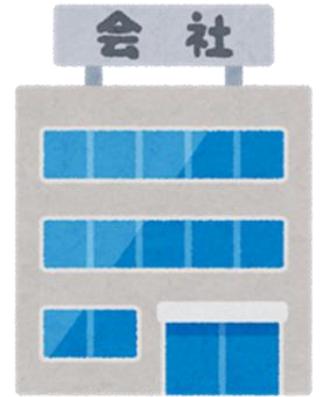
**教育に対する負担軽減  
行政の他の支援を受ける機会の創出**

# 提携機関のメリット

①子ども達への宣伝効果

②自治体施設の優先貸し出し

③提携機関同士の競争効果



広告費の節減  
サービスの質の向上

# 自治体へのメリット

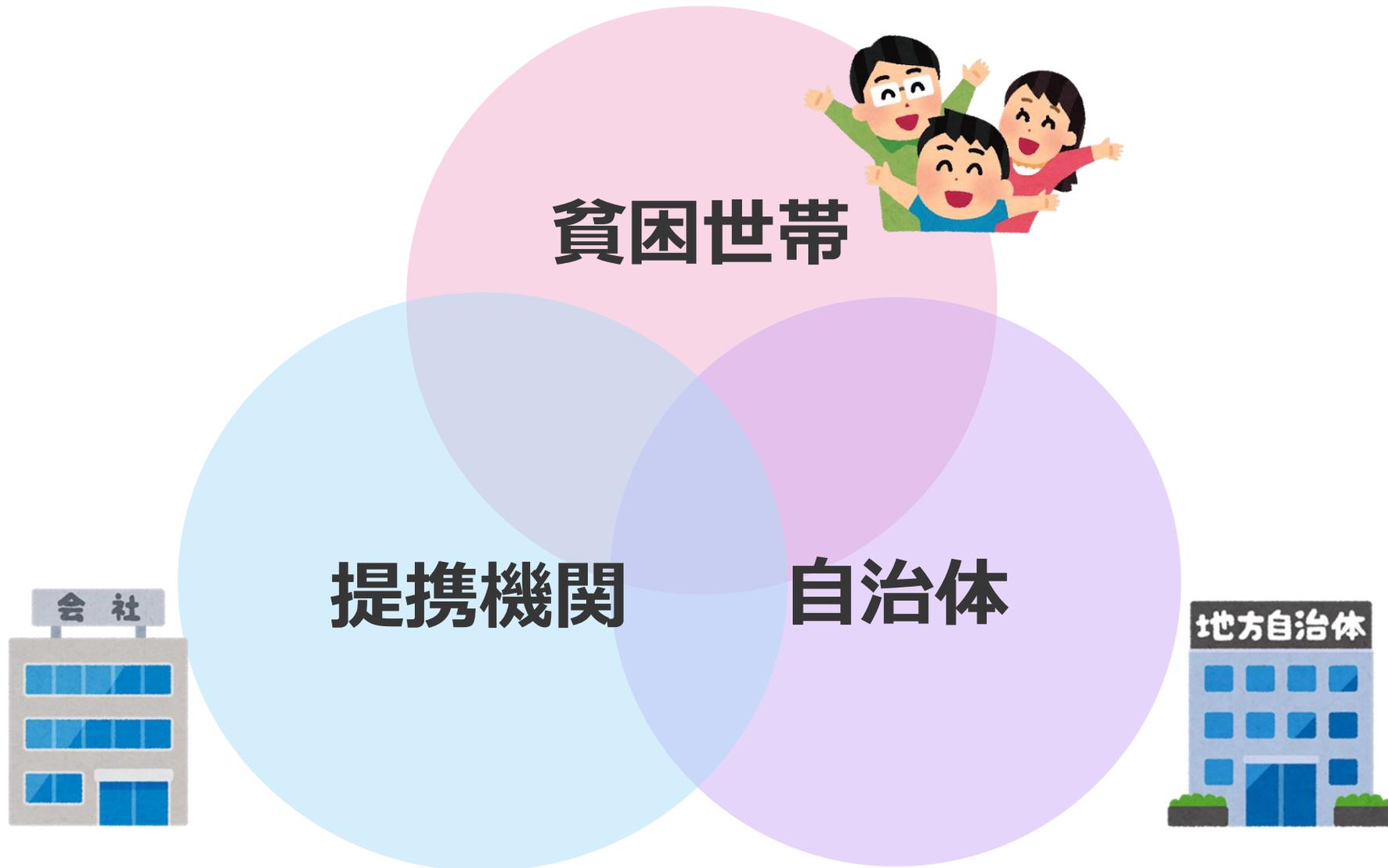
①相対的貧困家庭に関する情報把握

②地域の教育産業の現状把握

③地域ボランティアに子どもを取り込む



地域全体で子どもを見守り  
絆を深める



全ての経済主体にメリットが期待できる

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# 3. 課題と解決策

-勉強時間の確保-

# 我々の懸念

本来の狙い： 相対的貧困にある子どもたちの  
学習・体験経験の機会を創出する

活動に  
参加

学習時間  
減少

# 学習院大学 鈴木亘教授にインタビュー

①ポイントを貯める活動の  
年齢層を広げてみる

②ポイントを貯める時点と  
支給する時点を変えてみる



# ①ポイントを貯める活動の年齢層を広げる

## 高齢者

体操教室などに  
通うことで、  
「健康ポイント」を  
貯め、子どもに  
還元できる。



ポイントを子どもたちに還元

**win×win**

地域との交流増加

## 子ども

老人ホームでの  
ボランティアや、  
地域の声かけ運動で、  
高齢者との繋がりが  
生まれる。



## ②ポイントを貯める時点と支給時点を変える

### 小学生の時



ポイントは貯めたまま！

### 中学生の時



貯めていたポイントで  
塾に行く！

# 異時点間の価値の交換を活かす！

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# INDEX

1

## 提案内容

-ポイントカード型の教育クーポン-

2

## 各経済主体への効果

-すべてにwinのある政策-

3

## 課題と解決策

-勉強時間の確保-

4

## 実現可能性の検討

-豊島区へのヒアリング-

# 4. 実現可能性の検討

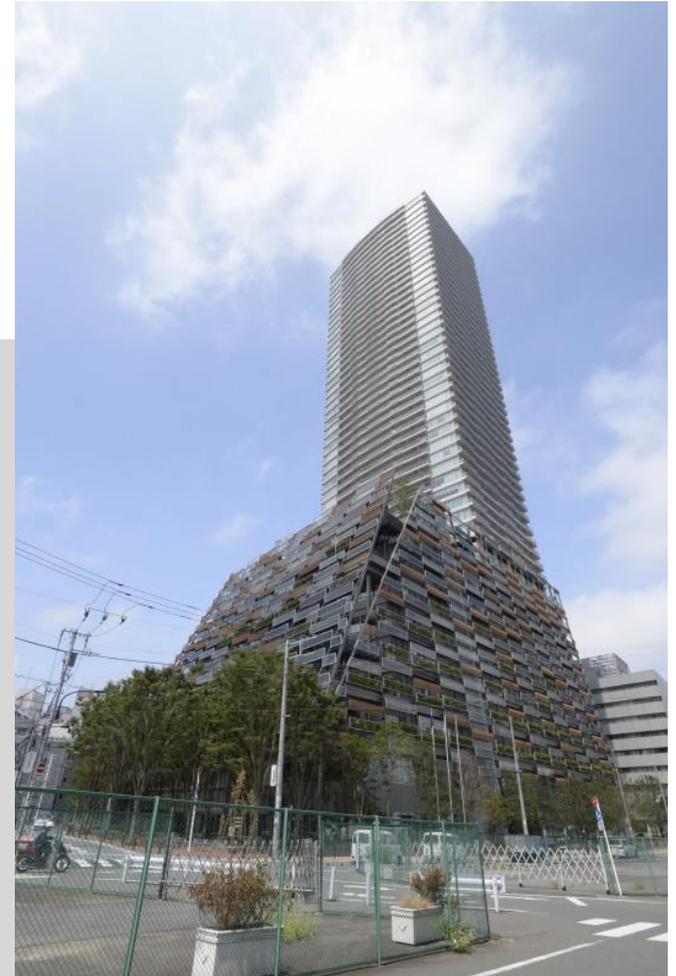
-豊島区へのヒアリング-

# 豊島区にヒアリング

豊島区教育委員会  
教育部放課後対策課にお話を伺った。

豊島区は学校施設を活用し、子どもたちの交流を広げる「子どもスキップ」事業を行っている。

「子どもスキップ」ではスポーツなどの体験教室なども行っている。



# 課題は人材確保

## すでに人手不足

現時点でも 1施設に1人くらいの割合で欠員が出ている。売り手市場なので、継続的な雇用に繋がらない。

## 事務管理専門の 人員が必要

ポイントを付与したり、ボランティア活動などを取りまとめたりする人員が必要。

# 新事業への懸念を打開する一手

豊島区

行政は税金を広く遍く使用しなくてはならない。  
なかなかピンポイントでの施策は行えない。

本提案はポイント制であり、各家庭には現金が支給されない

**「税金の懸念」を打開して相対的貧困家庭を支援できる**

# 体験教室の講師にメリット

豊島区

現在、体験教室などの講師の方には  
ほぼボランティアでやっていただいている。

本提案では、提携機関にも宣伝広告などのメリットがある

協力する教育機関が増え、多様な体験が可能に

まとめ

# 我々の提案のまとめ

## 目的

相対的貧困にある子どもたちの学習・体験機会を創出する

## 提案

ポイントカード型バウチャー券の配布・運用により

- 孤立を防ぎ、ほかの経済的支援の機会の創出
- 宣伝効果、サービスの質の向上
- 家庭の情報収集、地域全体のつながりが増える

相対的貧困家庭・各教育産業・自治体すべてに

**「win」** のある提案

# 本提案における期待



「少しずつの助け合い」による  
「子どもにやさしい社会」作り



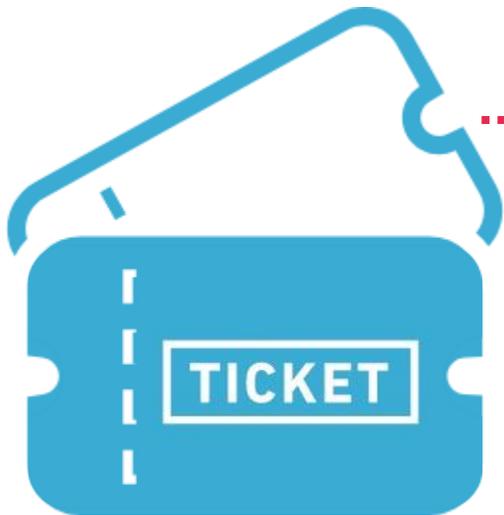
すべての子どもに豊かな経験を



# 参考文献・資料

- 平成27年度子供の貧困の状況と子供の貧困対策の実施  
[https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/taikou/pdf/h27\\_joukyo.pdf](https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/taikou/pdf/h27_joukyo.pdf)
- 大学生・院生の保護者の教育費負担に関する調査  
<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20151120.pdf>
- 平成27年版 子供・若者白書  
[https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h27honpen/b1\\_03\\_03.html](https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h27honpen/b1_03_03.html)
- 相対的貧困率等に関する調査分析結果について  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/soshiki/toukei/dl/tp151218-01\\_1.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/soshiki/toukei/dl/tp151218-01_1.pdf)
- バウチャーについて-その概念と諸外国の経験 内閣府  
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2001/0706seisakukoka8.pdf>
- 大阪市塾代助成事業  
<http://www.juku-osaka.com>
- あつまるカード - 北海道厚真町  
<http://www.town.atsuma.lg.jp/office/content/uploads/2017/03/H29.10.4-5.pdf>
- OECD-日本  
<https://www.oecd.org/eco/surveys/Japan-2017-OECD-economic-survey-overview-japanese.pdf>
- バウチャー入門コーナー 内閣府  
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2001/0706seisakukoka8-q.html>
- 『学校選択と教育バウチャー：教育格差と公立小・中学校の行方』 嶺井正也, 中川登志男著. 八月書館, 2007.
- 『貧困理論の再検討：相対的貧困から社会的排除へ』 志賀信夫著. 法律文化社, 2016.

ご清聴ありがとうございました。



学習院大学経済学部 清水順子ゼミ 3年

古瀧 紗夜

小泉 亜夕

佐藤 七愛